

【TKF アナライザー】 課題研究振り返り

探究活動、課題研究におけるアンケートです。

以下の 30 項目のルーブリック自己評価です。各項目の文章を読み、現段階で一番近いものに○をつけてください。

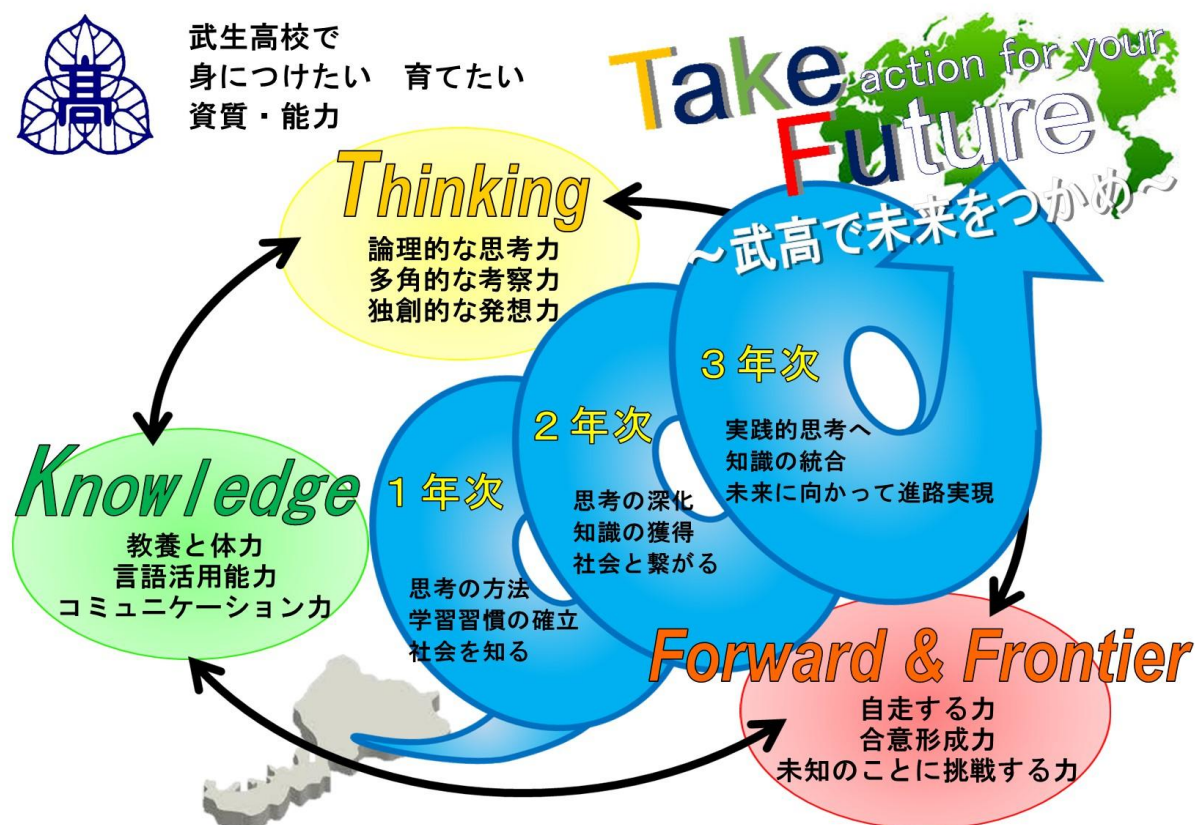
TKF アナライザー			第 3 学年				
			第 2 学年				
			第 1 学年				
研究 段階	項 目	質問内容	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	Level 5
問 い の 設 定	1	「問い（研究テーマ）」は自分の興味関心に基づくものでしたか？	当てはまる or 当てはまらない				
	2	「問い」は SDGs など社会に貢献できる内容でしたか？	役に立つと思う or 役に立たないと思う				
	3	「問い」の設定のために、先行研究を参考にしましたか？	先行研究を調べることなく「問い」を設定した。	先行研究を調べ「問い」を設定したが、先行研究との違いが不明瞭であった。	先行研究の「問い」を調べ、それをひねった独自の「問い」を設定した。	複数の先行研究を調べ、既存のデータや検証方法を参考にして、独自の「問い」を設定した。	複数の先行研究を調べ、既存のデータや検証方法から新しい課題を見出し、先行研究との違いを明確にしながら独自の「問い」を設定した。
	4	「問い」の設定のために、大学や企業などの外部専門家に相談しましたか？	関係する外部専門家を調べることなく「問い」を設定した。	関係する外部専門家を調べたが、直接相談することなく「問い」を設定した。	授業での相談会などで、外部専門家に相談し「問い」を設定した。	自ら外部専門家に相談し、専門家の意見を参考にして「問い」を設定した。	自ら外部専門家に相談し、複数回の意見交換を行いながら「問い」を設定した。
	5	検証結果から結論を導き出し、結論と問いとの整合性を確認しましたか。	結果から結論を導き出すことができなかった。	結果から結論を導き出したが、問いとの整合性を確認しなかった。	導き出した結論と問いの整合性を確認した。	導き出した結論と問いの整合性を確認したうえで、必要であれば問いを変更することができた。	導き出した結論と問いの整合性を確認したうえで、必要であれば問いを変更することができた。さらに、整合性を外部専門家に確認してもらった。
研 究	6	実験や調査について、実行可能な研究計画を立て、問いの検証に必要なデータの蓄積ができましたか？	研究計画を立てることなく、行き当たりばったりで実験や調査を進めた。	研究計画を立てたが、計画に沿って実行できなかったり、データの記録が十分でなかったりした。	実行可能な計画を立て、実験や調査のデータを正しく記録することができた。	実行可能な計画を立て、「問い」の検証の根拠となる実験や調査のデータを蓄積することができた。	実行可能で再現性の高い実験や調査を検討しながら計画を立て、「問い」の検証の根拠となるデータを蓄積することができた。
	7	実験や調査の方法について、大学や企業などの外部専門家に相談しましたか？	関係する外部専門家について調べることなく研究を進めた。	関係する外部専門家を調べたが、相談することなく研究を進めた。	授業での中間発表会などで、外部専門家に相談し、方法を定めて研究を進めた。	主体的に外部専門家に相談し、専門家の意見を参考にして、方法を定めて研究を進めた。	主体的に外部専門家に相談し、複数回の意見交換を行うことで、方法を調整しながら研究を進めた。
	8	適切な実験方法、調査方法を実践しましたか？	科学的な確証が得られていない独自の実験・調査方法を実践した。	教師や外部専門家が示した実験・調査方法をそのまま実践した。	授業で学んだ基礎知識や先行研究等から得られる情報を基にした実験・調査方法を実践した。	授業で学んだ基礎知識や先行研究等から得られる情報を基にし、教員の賛同を得られた実験・調査方法を実践した。	授業で学んだ基礎知識や先行研究等から得られる情報を基にし、外部専門家の賛同を得られている実験・調査方法を実践した。
	9	研究を進めるにあたり、課題へのアプローチ方法（実験・調査方法）を多角的に検討することができましたか？	課題へのアプローチ方法を十分検討することができなかった。	課題に対して1つのアプローチ方法かを検討することができた。	課題に対して複数のアプローチ方法を検討することができた。	「問い」の検証に有効なアプローチ方法を複数検討することができた。	文理枠を超えた多角的な手法を候補に挙げることができ、「問い」の検証に有効なアプローチ方法を複数検討することができた。
	10	実験や調査結果に対して客観的な考察ができましたか？	実験・調査結果の考察が不十分で、主観的なものだった。	実験・調査結果に対する客観的な考察を示したが、根拠に乏しく不十分であった。	実験・調査結果に対する客観的な考察を示したが、その根拠に妥当性を欠くものが含まれていた。	実験・調査結果に対する客観的な考察を示すことができ、その根拠もすべて妥当性の高いものであった。	実験・調査結果に対する客観的な考察を示すことができ、その根拠もすべて妥当で説得力のあるものであり、さらに改善すべき点まで言及することができた。
	11	「課題→実験・調査→結果の分析→新たな課題→実験・調査…」という研究のプロセスがありましたか？	「課題→実験・調査→結果の分析」というプロセスが十分に行えなかった。	「課題→実験・調査→結果の分析」という探究のプロセスを1回行うことができた。	「課題→実験・調査→結果の分析」という探究のプロセスを1回行い、新たな課題を見出すことができた。	「課題→実験・調査→結果の分析→新たな課題→実験・調査…」という探究のプロセスを複数回することができた。	「課題→実験・調査→結果の分析→新たな課題→実験・調査……」というプロセスを複数回行い、研究をより独自性の高いものにすることができた。
	12	「課題→実験・調査→結果の分析」のプロセスにおいて、矛盾のない考察を構成することができましたか？	論理の飛躍や誤りが見られ、考察に矛盾があった。	正しい主張や根拠を含んでいるが、考察に論理性を欠くところがあった。	研究結果に基づいて、論理的に考察を構成することができた。	研究結果に基づいて、論理的かつ客観的に一貫性のある考察を構成することができた。	終始、主張を裏付ける客観的・多面的な根拠を明確に持ち、矛盾のない考察を構成することができた。
	13	知的好奇心を持って、未知のことを解き明かそうと自ら進んで研究を進めることができましたか？	積極的に研究に取り組めなかったり、ほとんど人任せにしたりしてしまった。	ある程度知的好奇心を持って研究に取り組むことができたが、人任せにしまった部分もあった。	知的好奇心を持って、未知のことを解き明かそうと、前向きに研究を進めることができた。	高い知的好奇心を持って、未知のことを解き明かそうと、主体的かつ積極的に研究を進めることができた。	高い知的好奇心を持って、未知のことを解き明かそうと、強い信念を持って研究に情熱を傾けることができた。
発 表 準 備	14	見やすいスライドにするために、適切なフォントや文字の大きさや配色、レイアウトにすることができましたか？	文字が小さい、多いなど見にくいスライドだった。	全体の一部がやや見にくいスライドだった。	文字の大きさや配色がある程度適切で見やすいスライドを作成できた。	文字の大きさや配色が適切で見やすいスライドを作成できた。	文字の大きさや配色、レイアウトが適切で見やすいスライドを作成できた。
	15	スライドの内容をわかりやすく伝えるために、適切なグラフや図表を選択し、効果的に用いることはできましたか？	グラフや図表を用いていない。	グラフや図表を選択し、用いることができた。	ある程度適切なグラフや図表を選択し、用いることができた。	適切なグラフや図表を選択し、効果的に用いることができた。	内容をわかりやすく伝えるために適切なグラフや図表を効果的に用いることができた。

研究段階	項目	質問内容	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	Level 5
発表準備	16	どこからが自分の研究なのか分かるように、先行研究や出典をスライドに正しく示すことはできましたか？	先行研究を調べていない、または参考にした先行研究の情報をスライドに掲載しなかった。	参考にした先行研究や出典をスライドに明記した。	参考にした先行研究や出典をスライドに明記した。参考にしたり引用したりした箇所を示すことができた。	参考にした先行研究や出典をスライドに明記した。参考にしたり引用したりした箇所、自分の研究との違いを示すことができた。	参考にした先行研究や出典をスライドに明記した。他者の研究内容を簡潔に述べるのとともに、参考にしたり引用したりした箇所、自分の研究との違いを具体的に示すことができた。
	17	スライドは IMRaD 形式【1 序論（目的・動機）、2 方法、3 結果、4 考察】に従っていましたか？	2 方法、3 結果、4 考察までの流れが不明瞭であったり、考察が述べられていなかったりした。	2 方法、3 結果、4 考察を示すスライドを作成した。	1 序論(目的・動機)、2 方法、3 結果、4 考察を示すスライドを作成した。	1 序論（目的・動機）、2 方法、3 結果、4 考察を示すスライドを順序だてて作成した。	1 序論(目的・動機)、2 方法、3 結果、4 考察を示すスライドを順序だてて作成した。
発表	18	アイコンタクトを取りながら、はっきりと、適切な速度で、スライドを適宜示しながら話すことはできましたか？	スライドの進行と話す内容が上手にかみ合わないところがあった。	スライドを適宜示しながら順序よく話すことができた。	適切な速度で、スライドを適宜示しながら話すことができた。	聴衆に伝わるはっきりとした声と適切な速度で、スライドを適宜示しながら話すことができた。	アイコンタクトを取り聴衆の理解を確認しながら、はっきりと、適切な速度で、スライドを適宜示しながら話すことができた。
	19	質疑応答では、質問内容を理解し自信をもって適切な返答をすることができましたか？	相手の質問内容を理解することができなかった。	相手の質問内容を理解したうえで、あやふやであるが返答した。	相手の質問内容を確実に理解したうえで、自信をもって返答することができた。	相手の質問内容を確実に理解したうえで、研究で得たデータを示して自信をもつて的確に返答することができた。	相手の質問内容が予め想定されており、研究で得たデータを示して自信をもつて的確に返答することができた。
発表を聞く	20	他者の研究発表に対して、どうして？どうやって？本当に？などの疑問点や、研究の矛盾点・問題点を考えながら発表を聞くことができましたか？	疑問をほとんど感じず、批判的思考が不足していた。	表面的な疑問を感じたが、深い理解には至らなかった。	基本的な疑問を考え、内容の理解を図った。	論理的で具体的な疑問を通じて発表内容の理解をした。	研究の深層に迫る独創的な疑問や矛盾を考え、発表内容を十分理解した。
	21	他者の研究発表に対して、建設的な意見を述べたり、質問したりすることができましたか？	意見や質問ができなかった。	一貫性に欠けるが、基本的な意見や質問ができた。	適切な意見と関連する質問ができた。	研究に対する有益なフィードバックを促進する質問ができた。	研究改善に直結する質の高い意見と質問をすることができた。
研究の振り返り	22	課題研究を通して、多角的に物事を捉える力がついたと思いますか？	多角的に物事を捉える力をほとんどつけることができなかった。	課題研究において、多角的に物事を捉える力が少しついた。	課題研究において、多角的に物事を捉える力がかなりついた。	多角的に物事を捉える力を一般教科（他教科）にも広げ、活用することができた。	多角的に物事を捉える力を、一般教科（他教科）やその他の学校内外での活動にも広げ、活用することができた。
	23	課題研究を通して、実験・調査によって得られた情報を適切に分析する力がついたと思いますか？	多角的に物事を捉える力をほとんどつけることができなかった。	課題研究において、実験・調査によって得られた情報を分析する力が少しついた。	課題研究において、実験・調査によって得られた情報を適切に分析する力がかなりついた。	実験・調査によって得られた情報を適切に分析する力を一般教科（他教科）にも広げ、活用することができた。	実験・調査によって得られた情報を適切に分析する力を、一般教科（他教科）やその他の学校内外での活動にも広げ、活用することができた。
	24	課題研究を通して、他者との話し合いを円滑に進める力（ファシリテーション力）がついたと思いますか？	ファシリテーション力をほとんどつけることができなかった。	課題研究において、ファシリテーション力が少しついた。	課題研究において、ファシリテーション力がかなりついた。	ファシリテーション力を一般教科（他教科）にも広げ、活用することができた。	ファシリテーション力を、一般教科（他教科）やその他の学校内外での活動にも広げ、活用することができた。
	25	課題研究を通して、積極的に意見交換を行ったり、発表したりする力がついたと思いますか？	積極的に意見交換を行ったり、発表したりする力をほとんどつけることができなかった。	課題研究において、積極的に意見交換を行ったり、発表したりする力が少しついた。	課題研究において、積極的に意見交換を行ったり、発表したりする力がかなりついた。	積極的に意見交換を行ったり、発表したりする力を一般教科（他教科）にも広げ、活用することができた。	積極的に意見交換を行ったり、発表したりする力を、一般教科（他教科）やその他の学校内外での活動にも広げ、活用することができた。
	26	課題研究を通して、それぞれの意見や価値を認め合う力がついたと思いますか？	それぞれの意見や価値を認め合う力をほとんどつけることができなかった。	課題研究において、それぞれの意見や価値を認め合う力が少しついた。	課題研究において、それぞれの意見や価値を認め合う力がかなりついた。	それぞれの意見や価値を認め合う力を、一般教科（他教科）にも広げ、活用することができた。	それぞれの意見や価値を認め合う力を、一般教科（他教科）やその他の学校内外での活動にも広げ、活用することができた。
	27	課題研究を通して、見通しを立ててものごとを実行する力がついたと思いますか？	見通しを立ててものごとを実行する力をほとんどつけることができなかった。	課題研究において、見通しを立ててものごとを実行する力が少しついた。	課題研究において、見通しを立ててものごとを実行する力がかなりついた。	見通しを立ててものごとを実行する力を、一般教科（他教科）にも広げ、活用することができた。	見通しを立ててものごとを実行する力を、一般教科（他教科）やその他の学校内外での活動にも広げ、活用することができた。
	28	課題研究を通して、自己を調整しながら継続して取り組む力がついたと思いますか？	自己を調整しながら継続して取り組む力をほとんどつけることができなかった。	課題研究において、自己を調整しながら継続して取り組む力が少しついた。	課題研究において、自己を調整しながら継続して取り組む力がかなりついた。	自己を調整しながら継続して取り組む力を、一般教科（他教科）にも広げ、活用することができた。	自己を調整しながら継続して取り組む力を、一般教科（他教科）やその他の学校内外での活動にも広げ、活用することができた。
	29	課題研究で得られた力（上記 22～28 の 7 つの力）を、将来社会で活躍するために活用できると思いますか？	課題研究で得られた力を自身で認識できなかった。	課題研究を通して得られた力を、1～2 つ将来社会で活躍するために活用できると思う。	課題研究を通して得られた力を、3～4 つ将来社会で活躍するために活用できると思う。	課題研究を通して得られた力を、5 つ将来社会で活躍するために活用できると思う。	課題研究を通して得られた力を、6 つ以上将来社会で活躍するために活用できると思う。
	30	課外研究で取り組んだ分野への興味を深めることができ、これからも研究を続けていきたいと思いますか？	課外研究で取り組んだ分野への興味をあまり深めることができなかった。	課外研究で取り組んだ分野への興味を少し深めることができた。	課外研究で取り組んだ分野への興味をかなり深めることができた。	課外研究で取り組んだ分野への興味を非常に深め、今後もその分野の研究を続けたいと考えている。	課外研究で取り組んだ分野への興味を非常に深め、今後さらに研究を継続するため、その分野への進路も視野に入れている。

以上でアンケート項目は終わりです。



武生高校で
身につけたい 育てたい
資質・能力



令和5年度指定
スーパーサイエンスハイスクール
研究開発実施報告書・第2年次

発行日 令和7年3月

発行者 福井県立武生高等学校

〒915-0085 福井県越前市八幡1丁目25-15

Tel 0778-22-0690 Fax 0778-22-0692